

山側ルートに変更すべき

幡多地域住民が待ち望む道



議員 小永 正裕 (おなが まさひろ)

る、貴重な土地を提供頂かなければならないことについては、事業に伴うデメリットの1つである

手続きでやられていると思っっている。

害に強いまちづくりへの支援で、近い将来起こるとされている南海トラフ地震等の災害時に救援活動や、物資輸送に大きく寄与されること。

2つ目として、周遊観光や地域産業が促進されることにより、本町をはじめ県西部地域全体の活性化が図られること。

問 松本町長

本町は少ない農地にもかかわらず多くの国営農地、県営圃場建設事業、大方中央土地改良区など7・7haという多くの優良農地が消滅する。地方自治体にとつては、最も大切な財産と思うが町長は地元関係者らに対して十分な説明をしたと考えるか。

答 松本町長

町と町民にできるだけダメージがない第3のルートは、佐賀から四万十市に接続するまでほとんど直線だが、この山側を走るルートに変更の要望をすべきだ。それにこのルートだと幡多広域にもメリットがあると思うが、どうか。

現在の佐賀大方道路の計画は、平成25年度より計画段階評価を開始し、

問 四国でも高規格道路が徐々に延伸しているが、当町に予定されるルートが完成したとして、本町以外の他自治体で供用されている高規格道路の状態を比較観察してどう評価するか。また、町の未来と住民生活にどのような影響があると考えるか。メリットとデメリットなどを問う。

答 松本町長

メリットの1つ目として、防災機能の強化と災

3つ目として、安全安心に医療機関へアクセスできること。幡多けんみん病院への移動時間の短縮及び、現在の国道と比べてカーブ区間が減ることにより、搬送時の患者への負担軽減が図られ、住民の生命を守る面での貴重な道路と考えている。反面、建設用地として地権者及び耕作者の方々から、これまで守り続けてきた農地をはじめとす

地元説明会は事業主体である国土交通省でやるものと考え。住民からの意見反映は、アンケート調査を町内全世帯と旧中村市の全世帯で2回行っている。また、様々な意見ヒアリングや収集調査もしていて、かなり丁寧な手続きだったと思う。住民の意見を全く聞かずに勝手に決定したとは思っておらず、正規の

私としては、一連の手続きの方法については評価をしており、これまでの事業方針は間違っていないかと思っっている。

この高規格道路は、広域の意味でも、早く完成して、供用できるようにしなければならない。

本町だけではなく、幡多地域内の方が待ち望んでいる道だと思っっている。



早咲農地保全会・子ども会からのメッセージ